

2024 (令和6)年

shih koh

心耕 3月号

しん こう

花粉 到来 今のごころ、鼻うがいが必要になります。

西光寺々報

今月の行事

十二日(火)はじめの一歩

午後一時～ 阿弥陀經を学びます

春季彼岸会 午後一時～

十九日(火) 住取

二十日(水) 榎五郎梅・若住取

二十一日(木) 三島さん

勉強会 壮年会 六日午後五時

婦人会 十二日午前十時

写経会 八日(金) 午後一時～

ゆっくりと？

草取り 十七日(日)午前八時～

今年初！ 助けて下さい

おみがき 十五日(金)午前七時

寺力石 二十八日(木)午前十時

巨大ぬりん 昼食付

ヨガ 五、二十六日(火) 毎回千円

お朝事 毎朝六時

少しずつセルフレッジが増

えている。ある時都内のコン

ビニに行った。そこはセルフレッジ

しかない。やり方がわからない

後ろのお客様さんの圧力が伝わっ

くる。とっても渡れた。

ある日近所のスーパーに行った。セ

ルフレッジでどうしても野菜の入

力の仕方がわからない。すると

セルフ担当の店員さんがいて教

えてくれた。わからない人を見越

しているお店。有難い

お前さんはどうにもならないと見

越して阿弥陀仏は願いをかりて

いる。真実はセルフじゃないです。

彼岸家庭参り希望の方

三頁の地区割表を参照の上

同封の返信用ハガキにて申し込み

法座案内

十二日(火) 午後一時～

はじめの一步 第六回

阿弥陀経を学んでいます。今回はお釈迦様が阿弥陀如来の事を説明している部分です。初めての方でも大丈夫です。

春季彼岸会

十三時～十五時

太陽が真西に沈む春分の日。西は、阿弥陀如来が建立された極楽浄土を表します。阿弥陀如来のすくいを考える時間が彼岸会です。

日付 お勤め 法話

十九(火) 日没礼賛 若住職

二十(水) 初夜礼賛 桂五郎梅・若住職

二十一(木) 中夜礼賛 三島さん

※お彼岸の家庭参りは、別項を参照の上、同封ハガキにて返送を

各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半～七時、お勤めをしています。日々のお参り、命日などにお参り下さい。

・草取り

十七日(日) 八時～九時 是非ご助力を！

・写経会

八日(金) 十三時～十五時 どなたでも♪

・壮年会・婦人会主催の勉強会

壮年会 六日(水) 十七時～ 四月は三日

婦人会 十二日(火) 十時～

・おみがき

仏具をきれいにします。簡単な作業です。

是非 お手伝いください

十五日(金) 十時～十二時 弁当付

・Youtube 西光寺チャンネル新作公開

法事でよく読まれる「阿弥陀経和讃入」を

配信。他にも紙芝居やアニメ、

読経を上げています。QRから

どうぞ！



・はじめてのヨガ

五日、二十六日(火) 十三時～ 毎回千円

ヨガマット持参 予約不要

・みんなの寺カフェ

著替えの準備はいんかね

みんなの寺カフェ

ぬる

汚れは覚悟するんよ

巨大キャンバスにぬりまくる！

内容 「全身でぬりえ体験」

講師 阿部彩香氏(市内アーティスト)

日時 二十八日(木) 十時～十二時半

昼食付 大人五〇〇円 子ども無料

予約制 お寺まで 締切 二十七日

・四月二十八日は築地参り

四月の第四日曜は築地本願寺へ団体参拝をします。親鸞聖人御誕生八五〇年、浄土

真宗を開いて八〇〇年の記念法要があります。詳細は別頁をご覧ください。是非一緒にお参りしましょう。

苦行

これをしなかったら何か特別な力を得る気がする、というこ



SDGSを言訳に
妹のひな飾りを
娘の鳥に飾る
たぐひ私

たぐひ私

とを考えた経験はありませんか。子どもの頃に、横断歩道の白いところを踏まないとか、何かしらのルールを定め、心身を痛めつけ、それを実行していくことを突き詰めた人たちがインドにいました。そういった人たちが集める苦行林もいくつあつたようです。

お釈迦様も、悟りを開かれる前に苦行をおこなわれました。その姿は仏像にもなつており、あばらが浮き出て、頬はこけ、目はくぼんでいます。お釈迦様は、これでは悟りは開けないと苦行を止めます。一緒にすごしてきた伴は、墮落したと否定します。後に、お釈迦様が悟りを開いた後に、この伴に初めて説法をします。これを初転法輪といいます。

世の中には二つの極端がある。一つめは、欲と愛欲や



貪欲をよしとすることで、無意味で無益である。二つめは、自分に苦難を味わわせることは、苦痛であり、無意味で無益である。

こうして極端な道ではなく、中道をお説きになるのです。

こんなところに 仏教用語

用教仏近
語を紹介して
います。

救済

救済を仏教では「くさい」と読みます。読み方はかわり



ますが、意味は「すくい」です。仏教では何をもつて救済というのでしょうか。

生まれ変わり生まれ変わり、迷いの世をまた生まれ変わることから抜け出すことを解脱と言ひ仏教はそこを目指しました。そのためには、苦しみを除かなければならない。苦しみを除くには、執られることから離れなければならない。そのために出家をしていく道を初期の仏教は説いていました。

ところが、出家者を支える人々はどうなるだろうか。社会生活をしなければならぬものもいます。経済活動をしなければ生きてはいけません。こうした在家の人々がすくわれていく仏教はないのだろうか、「大乘仏教」が興ります。日本に伝わっているのはこちらの仏教です。

そして、自力的要素を捨て、自分の力では限界があり、さと

りを開くことは不可能である。弱い人間をすくうために阿弥陀仏は立ち上がられたと、他力救済の浄土真宗が開かれます。今年はその八百年の年です。



彼岸会特別法座 3月20日(水)

場所：西光寺(市原市723-1) 13~15時

節談 西光寺副住職

熊谷蓮生房出家の段

一の谷の合戦で我が子ほどの

敦盛を討ち取った熊谷直実

武士の生業に嫌気がさし

法然聖人のもとへ向かう

講談 桂五郎梅

一の谷軍記「青葉の笛」



國中菩薩等

『大經』二十三

二十二願は大乘至極の願であります。ここに私達の人生の歩みが示されています。仏教に触れ、目を向けたものは、教えを聞き他の衆生に伝達していくというのです。聞くというのは訊ね学ぶと言う事です。浄土真宗では聞法を大事にしています。それは阿弥陀仏の身元を訊ね学び、他者に対する思いやりが生じる事なのです。これを慈悲と言いう普賢の徳なのです。菩薩としての生活です。このことを伝えていくのが還相回向なのです。菩薩は地獄、餓鬼、畜生界を始めいたるところに居ます。あらゆる世界で菩薩としての生き方は必ず浄土に往くことに成るのです。龍樹・曇鸞・親鸞の「自然即時入必定」なのです。

ここから暫く二十二願を具体化するために「國中菩薩」と呼びかけていきます。この國中菩薩には二十二願で集めた他方仏土の菩薩たちも含めてお思います。内外問わず阿弥陀国に居る一切の菩薩が対象です。自利と利他です。二十三・二十四願は他方諸仏の国を廻って菩薩としての礼拝等の自利の手助けをします。そして二十五・二十六願で利他行を始め普賢の徳の実践に入ります。

國中菩薩たちの活躍により二十七願は、阿弥陀国の

「人天一切万物嚴浄光麗」と覺りの世界を表現します。四願の「悉皆金色」を彷彿とさせています。しかもデザインは特殊で微妙であるとしています。六願で「天眼通」を得た者でも読み取ることが出来ない世界が覺りであることを示しています。量ることも言い尽くすことも出来ない世界です。親鸞聖人は、この涅槃を弘誓の一乘海と示し、「無碍無辺最勝深妙不可説不可称不可思議の至徳」と言葉を重ねて表現しようとしています。また別の表現では「言葉も絶えたり」としています。どんなに優れた人でも、どんなに知識が有っても表現できない世界なのです。ただ一つ知ることが出来るのは体験だけです。ここに誘うために二十三・二十四願の他利によつて、知りえたことを二十五・二十六願の利他すること、二十七願の境地に必ず至るとし、二十二願へと戻ってくるのです。この六つの願は法蔵菩薩そのものです。四十八願全体の設我得仏から不取正覚と活動している姿なのではないかと考えています。在家出家に関わらず菩薩としての在り方を示しているのが『大經』なのです。多くの人々と交わり、互いに支えあい豊かな人生を過ごしていくことが望まれています。

住職多感

凄まじい年の幕開けから二月が過ぎようとしている。気候の甚だしい不順の様の中で、ウクライナ・パレスチナの地では圧倒的な力の差で蹂躪される人々の姿がテレビの小さい画面に度々映し出される。人間はいつた何をやろうとしているのかわからなくなってしまう。

今本願寺のちよつとした役を仰せつかっている。その任期がこの三月に終わる。ようやく西光寺の代替わりに取り掛かることが出来る。一九八一（昭和五六）年以來の市原五井布教所・西光寺の代表の座を若住職に譲ることが出来る。一仕事終わる節目で、俺は何をしてきたか、何をしようとして来たのかと自問いする

日々も多い。

体は確実に老いた。活動範囲も著しく狭くなった。しかし若い頃思っていたことの輪郭が次第に明確になり、こういうことだったのかと自身で納得することある。

さて西光寺の大方のことは若住職に任せて俺はこれから何をしよう。懐に相談しても寂しくなるだけのこと、ナンマンダブの話、人は何を一番の安心どころとしていくか、このことだけに的絞って思考し話をしていこう。とは言っても歌は好きだし映画も好きだし古い友達と飲むのも好きだし困った。

「博士の愛した数式」。二十年ほど前の映画が先日テレビで放映された。いやあいい映画だった。

四月の行事

- ・三日 勉強会
- ・十二日 はじめの一步・勉強会
- ・十九日 写経会
- ・二十日 寺カフェ
- ・二十一日 草取り
- ・二十八日 築地本願寺参拝
- ・ヨガ 一、十六、三十日

発行

浄土真宗本願寺派(西)
西光寺

千二九〇一〇〇二四
千葉県市原市根田

七二三一一



TEL : 0436-22-7412
FAX : 0436-24-1652
HP : <https://www.saikohji.net>
MAIL : saikohji@saikohji.net